

# 「Learning from each other!」 ～医学情報サービス研究大会をより充実させるために～

## 1. 「Learning from each other!」 込められた思いとは

生命科学系の情報専門家として仕事をしていくためには、必要な知識とスキルを学びあうだけでなく、大きく変化する社会状況のなかで、専門職としての役割を再定義していく努力が求められる。医学情報サービス研究大会は、その努力の成果を試すひとつの場といえる。なぜなら医学情報サービス研究大会の特徴は、年齢、所属機関、性、地域、肩書きなどの違いをこえ、学びあうことに熱意を持ち、率直に交流し、問題解決の方法を求め、そして職業人としての向上を目指す人々が集う点にあるからです。つまり、医学情報サービス研究大会が掲げる「Learning from each other!」には、「参加者の所属機関・肩書きを意識しない」、「学びあう」、「自覚的に参加する」という思いが込められている。

医学情報サービス研究大会には、毎回参加する人、久しぶりに参加する人、初めて参加する人、発表する人、発表を聞きたい人等、様々な人がいるが、「Learning from each other!」に込められた思いを理解していただければ、たとえひとりで参加したとしても、医学情報サービス研究大会で有意義で心地よい時間を共有することができる。

## 2. 参加の目的

医学情報サービス研究大会とは、その名の通り、研究発表の場である。したがって医学情報サービス研究大会に参加する目的は、研究発表をすることであり、研究発表を聞くこととなる。

この参加目的を達成させ、より充実感を味わうために、発表者、聴衆、モデレーターに以下のことを提案したい。

## 3. 発表者

発表は自分の研究成果を問う場所です。ひとりでも多くの聴衆に自分の研究を理解してもらえよう、発表の仕方を工夫しよう。

### 3.1. 発表に際して

#### (1) 発表の内容

- ・ 既発表の内容でも許容できるが、大会参加者に興味ある視点から発表しよう。
- ・ 持論を展開するだけでなく、データや文献等で裏付けを得て、より客観的な分析・考察をしよう。
- ・ 宣伝的な内容に終始しないようにしよう。

## (2) 発表の形式

- ・ 医学情報サービス研究大会の発表では、“口頭発表”と“ポスター発表”が設けられることが多い。それぞれにメリットがあり、向いている形式を選択する。

## 3.2. 口頭発表

### (1) 研究の目的と結論を明確にしよう。

- ・ 研究の目的と結論を分かりやすく伝えるために、発表を組み立てよう。

### (2) 研究の目的と結論に沿った説明をしよう。

- ・ 発表では、調べたことのすべてを説明する必要はありません。研究目的と結論を理解してもらうため、必要なことのみを端的に説明しよう。
- ・ 問題の背景や先行研究を丁寧に説明すると、どうしても長くなりがちです。時間配分を考えて、勇気をもって割愛することも大切です。

### (3) 発表時間を守ろう。

- ・ 発表時間は必ず発表要領で確認して、時間内に収まるように構成しよう。
  - ・ ベルが1回鳴ったら：まとめに入る。
  - ・ ベルが2回鳴ったら：いったん終了して、モデレーターの指示に従う。
  - ・ 発表終了後に質疑応答。

## <口頭発表のコツ>

### 準備

- ・ 発表要領で、用意されるパソコン環境とインターネットの有無を確認しておこう。
- ・ スライドは、シンプルな画面構成を心がけよう。目的から結論に至るまで、分かりやすい文脈を考えよう。
- ・ アニメーションはなくてもよい。使う場合は発表で効果的になるようにしよう。
- ・ リハーサルをして、スライドを見て条件反射で説明ができるようになるろう。声を出すことも大事。同僚・家族などに聞いてもらおう。

### 発表

- ・ 緊張・不安は誰にでもある。少なくとも医学情報サービス研究大会では、怖れる必要はない。
- ・ 原稿を用意して、読み上げても構わない。
- ・ 発表姿勢がよいと、発表の印象もよくなる。
- ・ 時間内に2、3回会場を見渡して、聴衆の反応に目をやるとよい。

### 質疑応答

- ・ 質問にはシンプルに答えよう。分からないことを無理に答える必要はない。
- ・ 学術研究の世界では、クリティカル・シンキング（批判的思考）が一般的である。

そのため、発表に対して批判的な質問をされることもある。それはあなた個人を批判しているのではないので、質問に対し真摯に回答しよう。

- ・ 質問を怖れない。感謝する気持ちで答えよう。

発表をより充実させるため

- ・ 発表内容を論文にしてみよう。
- ・ 発表は経験こそが上達の極意。ぜひ継続しよう。

### 3.3. ポスター発表

(1) ポスターで、発表内容を自由に表現しよう。

- ・ 発表で伝えたい、研究の目的と結論を明確にしよう。
- ・ 口演発表と同様に、すべてのことは伝えられない。研究の目的と結論を分かりやすく伝えるため、内容とデザインを検討しよう。

(2) 決められた大きさを守ろう。

- ・ 所定のパネル内に収まるように工夫しよう。

(3) 説明を明解・明確にしよう。

- ・ 文字を減らしてできるだけ図示して、短時間で理解してもらえる工夫をしよう。
- ・ ポスターは“ぱっと見”の印象が大切。参加者に足をとめていただき、読んでもらえる構成を心がけよう。

#### <ポスター発表のコツ>

##### 準備

- ・ 大判印刷ポスターでも、コピー用紙を複数枚貼る構成でも、どちらでも構わない。
- ・ 事前に完成させたポスターを持ち込むため、万が一に備えてバックアップを考えよう。(USB でデータを持参, Web mail にファイルを投稿等) 修正液・サインペン・色鉛筆等があると、軽微な修正ができる
- ・ 発表に必要なパネルや画鋏は、実行委員会が用意する。指定された場所・時間内に、所定の場所に掲出しよう。

##### 発表

- ・ “ポスター発表ダイジェスト”という、口頭発表の時間が設けられることがある。
- ・ 限られた短い時間では、すべてを説明することはできない。ポスターを見に来てもらう呼びかけに徹しよう。

##### 質疑応答

- ・ “発表者待機時間”が設定されていれば、決められた時間にポスター前に立とう。
- ・ 口頭発表と異なり、一対一で納得のいくまで話し合える利点がある。
- ・ 興味のある方だけが質疑応答に来るので、気負わず挨拶や声がけをしよう。でき

れば名刺交換も。質問を怖れず感謝する気持ちで、ポスターを見ながら納得いくまで議論しよう。

- ・ 同じ質問が繰り返される場合、根本的な問題か、単なる説明不足かもしれない。分からないことは、逆に質問してみよう。教わることは恥ずかしいことではない。

発表をより充実させるため

- ・ 発表内容を論文にしてみよう。
- ・ ポスターで言いたかったことを、文章にして説明しよう。

#### 4. 聴衆

質問は、発表に対する理解を深めるために行います。発表者、そして自分以外の聴衆にも分かりやすい質問を心がけよう。

(1) まずは名乗ろう。

- ・ 挙手して、モデレーターから指名されたら、所属先と氏名を名乗ろう。

(2) 質問は明確にしよう。

- ・ 質問かコメントかを最初に述べて、1回にひとつだけにしよう。
- ・ 質問の前に持論を展開することはせず、聞きたいことを明確に述べよう。
- ・ モデレーターの指示に従って質問しよう。

(3) 興味を持ったら、質疑応答の時間以外にも、発表者に質問してみよう。

- ・ 休憩時間や懇親会なども、質問のチャンスとして活かそう。

#### 5. モデレーター・タイムキーパー

モデレーターが発表者・質問者の発言を指揮することにより、発表のクオリティも変わります。発表者・質問者が独断に走らないよう、上手にコントロールしよう。

(1) セッションを把握しよう。

- ・ 大会抄録でセッションのテーマ、発表者名のヨミと所属、演題内容を確認しよう。
- ・ セッション発表者が緊張しているか、問題を抱えているか、事前の打ち合わせを通して把握しておこう。

(2) 発表の時間を守ろう。

- ・ セッションに設定された時間を把握しよう。
- ・ タイムキーパーは、規定された時間どおりにベルを鳴らそう。ただし、規定時間内に発表が終了した場合は鳴らさない。
- ・ 時間内に終わらない場合は、モデレーターが一度制止して、対応を指示しよう。
  - ・ すぐ終わりそうなら、多少の延長を認める。
  - ・ 終わりそうにないなら、いったん止めてもらい、継続・終了を指示する。

(3) 質問の交通整理をしよう。

- ・ 質問，回答はモデレーターの指示のもとで行うようにしよう。
  - ・ 聴衆を無視しない（発表者と質問者で勝手に盛り上がらない）ようにしよう。
  - ・ 質問者の発言が長い場合や内容の要領を得ない場合は，質問者に注意しよう。
  - ・ 質問や回答が脱線しないよう制御して，分かりにくい場合は要約しよう。
- (4) 質疑応答を活発にしよう。
- ・ 質問が出なかった場合，可能であれば，モデレーターから質問しよう。

## 6. 参考文献

- ・ 黒木登志夫. 知的文章とプレゼンテーション (中公新書 2109). 東京: 中央公論新社; 2011.
- ・ 堀口安彦. 発表が楽しくなる! 研究者の劇的プレゼン術: 見てくれスライド論& よってらっしゃいポスター論と聴衆の心をつかむ講演技術. 東京: 羊土社; 2013.
- ・ 渡部欣忍. あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ!: シンプルに伝える魔法のテクニク. 東京: 南江堂; 2014.
- ・ 今泉美佳. ポスター発表はチャンスの宝庫!: 一步進んだ発表のための計画・準備から当日のプレゼンまで. 東京: 羊土社; 2003.
- ・ 宮野公樹. 学生・研究者のための伝わる! 学会ポスターのデザイン術: ポスター発表を成功に導くプレゼン手法. 東京: 化学同人; 2011.
- ・ Thomas A. Lang, 宮崎貴久子; 中山健夫訳. トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド. 東京: シナジー; 2012.
- ・ MIS31 名古屋大会実行委員会 「“QOL” for MIS31 ~学びの質を高めるために~」 [internet] . [http://mis.umin.jp/31/pdf/MIS31QOL\\_20140224.pdf](http://mis.umin.jp/31/pdf/MIS31QOL_20140224.pdf) , <http://www.slideshare.net/satomikojima750/mis31-qol-20140224-34934408> [accessed 2017-04-06]

2017年4月  
医学情報サービス研究大会幹事会